



第18図 北陸地方のつゆに関連する天気積算値の経過モデル。

第17図はつゆ明け前後における弱風継続の現われ始めた日を示している、これによると長い継続はつゆ明け日の1~4日後に現われて、天気安定の方が風の安定より先行していることになる。しかし、つゆ明け数日前に1度単発的に現われることも多い。

第14図からわかるように、見せかけのつゆ明けに悩まされた昭和46年7月上旬後半の風の強さは、ともすれば南下の心配のある寒気存在を示唆しているものと見たい。

7. ま と め

北陸地方のつゆ期間の天気进行分析すると、次の傾向があった。

- 入りははっきりしない。
 - 前半は中休みがあることが多い
 - 後半は悪天が継続しやすい
 - 明けははっきりしている
 - つゆ明け後は最高気温 28°C 以上の雨の降らない日が7日以上続くということが目安となる
- つゆの情報を社会によりよく理解して貰うためには、予報と合わせて統計的なパターンも説明することが必要であると思われる。そのため第18図のようなモデルを作った。

昭和47年のつゆ入り発表時期に、それまで調査が進んでいた部分を部外の人達に説明したところ、理解を持った反応が多かったように感じられた。

最後に、この調査を企画し、援助して下さいました新潟地方気象台の久保台長、佐々木予報課長に感謝の意を表します。また、有益な助言を頂いた柴山予報課長、百瀬防災気象官にも同様に感謝の意を表します。

文 献

- 1) 川本敏夫, 1957: 梅雨と豪雨, (新潟県) 農林気象, 第5巻第6号.
- 2) 東京管区気象台編, 1961: 東京管区地域気象ハンドブック, 新潟県の部.
- 3) 気象庁予報部, 1964: 気象官署予報業務取扱便覧.
- 4) 昭和32年度全国予報技術検討会資料, 1958: 各官署の資料.

気象研究ノート質疑応答・追加解説欄の新設について

気象研究ノート編集委員会

気象研究ノートは、気象学諸分野の総合報告や研究上の諸問題をとりあげ、研究や教育に役立てていただいております。

ところで、調査、研究の前進にともない、気象研究ノートに掲載された内容が不十分あるいは不適当になることがしばしば指摘されておりますが、これまでこのような点について系統的にとりあげてこなかったために不都合を生じることがありました。

そこで、気象研究ノート編集委員会では、気象研究ノートの内容について、読者と執筆者からの質疑応答・追加解説の記事を掲載することにいたしました。

ふるってご投稿下さるようお願いいたします。

なお、原則として1件刷上り4ページ以内とし、別刷を必要とするばあいは実費をいただきます。